

南海艦隊のエアクッション艇大隊

漢和防務評論 20181006(抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

中国は、ウクライナから4艘のZUBR型エアクッション艇を導入しました。元々はロシア製のエアクッション艇ですが、従来から大き過ぎて揚陸艦には入らず、運行経費も膨大になり使いにくいと言われていました。中国はこのエアクッション艇を南海艦隊に配備しました。如何なる運用をするのか、上陸には便利だが攻撃には脆弱で、隠密行動にしても大き過ぎて発見されやすい弱点があります。また維持するだけで莫大な経費がかかるとのこと。現在は、1艘目が就役しましたが、2艘目は試験中、3、4艘目は建造中とのことです。日の目を見ることなく、いずれは廃艦か？

KDR 東京特電：

中国海軍発行の出版物は、数年前から、艦隊所属のエアクッション艇大隊の建設に関する記事を頻繁に掲載していた。最初のZUBRエアクッション艇大隊は南海艦隊に建設された。基地は、2017年に完成し、現在すでにエアクッション艇が配備されている。ZUBR型エアクッション艇の最初のグループ4艘は、全てこの基地に配備される。

6個の停泊場所には積載量80トンの中国製エアクッション艇が停泊していた。1個大隊は10艘のエアクッション艇で構成され、戦時には一度に1個混成大隊を運ぶ能力がある。

ZUBRの生産は順調ではない。現在真に就役しているのは1艘(艦番号3325)のみである。別の1艘がなお試験中(3326)であり、すでに3年が経過した。3艘目(3327)及び4艘目は、建造中である。これらの艇は広州黄埔造船所で建造されている。2015年及び2016年は建造中であつたが、2017年以降は新艇の建造は見られない。黄埔造船所は、ZUBR型エアクッション艇を大量に生産する能力はないと思われる。その理由は、部品補給の問題があるからである。前の2艘の部品は、ウクライナから提供を受けた。

比較的小型の国産726型エアクッション艇は、上海江南長興造船所で建造され、生産は順調である。2018年3月以降、なお生産中(3艘)である。中国海軍は、32XXシリーズの726型エアクッション艇を2018年1月に一度に4艘受領している。726型エアクッション艇は、建造する際、4艘が1グループなのであろう。最初のエアクッション艇大隊が南海艦隊に配備されたということは、これらの艇が主として南シナ海の長距離作戦に使用されることを示唆している。中国の海軍力整備の慣例に従えば、東海艦隊にも1個エアクッション艇大隊が建設され、逐次拡充される。後者は、当然主として台湾に対する上陸作戦に使用され

る。現在、周山基地にはエアクッション艇の配備は確認されていない。
4 艘の 071 型揚陸艦のうち 3 艘が南海艦隊へ、1 艘は東海艦隊に配備されている。
071 は現在 2 艘が建造中である。したがって次の段階は、東海艦隊に多くの 726
エアクッション艇が配備されることになる。

ZUBR は当然長距離航行能力がある。726 は通常 071 型揚陸艦に随伴して協同
作戦を行う。したがって南海艦隊が一旦台湾南部への上陸作戦に参加するとな
れば、上述のエアクッション艇は速やかに同作戦に投入されるであろう。

以上